

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	建設局 緑政課・公園建設課
連絡先	582-2466・582-2460

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	地域に役立つ公園づくり事業
-----	---------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	「地域に役立つ公園づくり」とは、「計画段階から地域の声を聞き、地域住民と協働で策定していく地域提案型公園計画」で具体的には、小学校区を1つの単位として、まちづくり協議会を始め幅広く地域の意見を伺いながら、既存の街区公園を活用して改修したり、足りないものは追加するなどし、より利用されるよう地域(校区)が求めている機能を持った公園計画を策定するものです。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	モデル校区4地区の継続公園整備 新規市内8校区での基本計画策定及び一部整備	H22年度計画策定校区での公園整備 新規市内8校区での基本計画策定	H22、23年度計画策定校区での公園整備 新規市内8校区での基本計画策定	H23、24年度計画策定校区での公園整備 新規市内8校区での基本計画策定	
これまでの進捗状況、今後の予定	モデル校区4地区の継続公園整備 新規市内8校区での基本計画策定及び一部整備	H22年度計画策定校区での公園整備 新規市内4校区での基本計画策定	H22、23年度計画策定校区での公園整備 新規市内4校区での基本計画策定	H23、24年度計画策定校区での公園整備 新規市内4校区での基本計画策定	H24、25年度計画策定校区での公園整備 新規市内4校区での基本計画策定		
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）			平成22年度	平成23年度	目標	
	地域に役立つ公園づくり事業実施校区数(計画を策定する小学校区数)			計画	8 校区	4 校区	年度 平成26年度
	本事業を実施した校区数。各校区において、地域住民と計画策定のためのワークショップ等を実施し、意見交換を重ねながら、地域で使いやすい公園整備を目指すもの。毎年、市内4校区程度選定し、事業実施を行います。			実績	8 校区	校区	内容 28校区で計画策定を実施(累計20~26年度)
				達成度	100 %	%	年度
				計画			内容
				実績			
コスト				事業費	173,401 千円	250,000 千円	
				うち一般財源	44,401 千円	37,000 千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	22年度は、20年度に計画策定を行った市内4つのモデル校区での公園整備を継続実施。工事に関する詳細な地元協議や工事の日程調整などで工事着手が一部遅れた箇所があったが、全体としては、概ね計画どおりに進捗しています。また、新たに市内8校区の計画策定に行い、その計画に基づき、一部の公園で工事着手しています。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	これまでの地域に身近な街区公園の整備については、どの公園についても、同じような遊具等が設置され、画一的なものであったが、各公園周辺の住民の意見を広く聞きながら、整備に反映することにより、校区内の公園でも特色付けができ、さらなる利用促進につながっています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	3	現在、1校区に対して、係長1名、職員1名の計2名体制で対応を行っている。地域との連絡調整やワークショップの開催支援などを行っている。コンサルタント等への委託を行い、業務の軽減は図っているが、市内部の関係部局や、地域自治会、まちづくり協議会等との調整は直接市で実施しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	本事業は市民と協働で、公園計画を策定するものであり、地域づくりにも貢献していることから、施策実現のため、今後も本事業を積極的に実施していく必要が高いと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。	4	現在のところ他の実施主体は考えられず、実施主体は市が適切と考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了 本事業は施策に対する有効性も高く、「子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり」を図っていく上で、重要な事業と考えます。今後も目標達成に向け、着実な取り組みを進めていくことが適当であると考えます。現在、市内8校区での計画策定(ワークショップ)を実施していますが、H22年度の実施状況を再検討し、今後各年度で新規着手する校区数を4校区に見直します。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	地域をはじめとして、各区役所など関連部局と連携しながら、積極的な事業展開を行い、地域がより使いやすい公園づくりを目指します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	建設局・公園建設課、緑政課
連絡先	582-2460、2466

政策分野	子供や若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	--------------------------

事業名	愛着の持てる身近な公園づくり
-----	----------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	身近な公園において、利用者の要望、意見や危険箇所、老朽箇所に対応した維持補修・改修を行います。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	身近な公園において、利用者の要望、意見や危険箇所、老朽箇所に対応した維持補修・改修を毎年度約250箇所行います。				
これまでの進捗状況、今後の予定		予算が厳しい中、創意工夫を行うことで身近な公園整備の予算を確保しており、現在のところ計画通り行われています。なお、今後も予定通り行います。					
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）		平成22年度		平成23年度		目標
	整備箇所数	計画	250 箇所	261 箇所	年度	平成26年度	
	まちづくり整備課や東西事務所で行う、維持補修・改修工事や主に徒歩圏内の地域住民が利用する公園(住区基幹公園)の整備数の平均が、約250公園である、年間250公園の整備を行います。	実績	316 箇所		箇所	内容	1,642箇所(累計)
		達成度	126.4 %		%		
		計画				年度	
	実績				内容		
	達成度	%		%			
コスト	事業費	679,702 千円	476,000 千円				
	うち一般財源	4,426 千円	9,000 千円				

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	22年度については、年度途中に補正予算があり、事業費が確保できたため、316公園の整備ができました。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	身近な公園は、地域住民の利用が多く、利用者の中には子育てを行っている家庭も多いため、これら利用者の安全確保や要望にも応えています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	利用者の意見、要望や危険箇所・老朽箇所を整備しているため、必要最低限の箇所を整備しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	維持補修的な整備もあり、実施しなければ利用者の安全が確保できていません。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		4	現在のところ他の事業主体は考えられず、事業主体は市が適切と考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	本事業は危険施設・老朽施設の維持補修・改修や身近な公園の整備を行う事業であるため、施策に対する有効性も高く、今後も継続的に行っていく必要があります。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	安全を第一に考えるため、危険箇所や老朽箇所は見つけ次第、早急な改修を行います。また、利用者の要望には可能な限り対応していきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	建設局・公園建設課、緑政課
連絡先	582-2460、2466

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	子育てに配慮した公園整備事業
-----	----------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本事業は、乳幼児期の屋外における自然体験や社会体験の場、子育て中の親同士のコミュニケーションの場として、既存公園を改修して乳幼児コーナーを設置するものである。乳幼児コーナーは、乳幼児の心身の発達を促し、子育て中の保護者のストレスを軽減し、保護者が育児経験者などと世代を越えた情報交換や交流の場として寄与するなど、少子化社会へ向けた地域社会の活性化を図ることを目的としています。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	東西1箇所、計2公園の乳幼児コーナーの設計及び整備	東西1箇所、計2公園の乳幼児コーナーの設計及び整備、次年度工事予定の2公園の実施設計	東西1箇所、計2公園の乳幼児コーナーの整備、次年度工事予定の2公園の実施設計	東西1箇所、計2公園の乳幼児コーナーの整備、次年度工事予定の2公園の実施設計		東西1箇所、計2公園の乳幼児コーナーの整備、次年度工事予定の2公園の実施設計
これまでの進捗状況、今後の予定		東西2公園の整備完了。平成22年度末時点で、市内17箇所の乳幼児コーナーの整備完了。	19公園の乳幼児コーナーの整備完了予定	21公園の乳幼児コーナーの整備完了予定	23公園の乳幼児コーナーの整備完了予定	25公園の乳幼児コーナーの整備完了予定		
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標	
	子育てに配慮した公園（乳幼児コーナー）の整備箇所数				計画	2 公園	2 公園	年度 平成26年度
	育児サークル等が活動する市民センターや児童館に隣接する公園に乳幼児を対象とした公園整備を行っています。これまでに市内17箇所の公園に整備しており、利用者からは「公園に来る回数が増えた。」「子育て中の親同士で話ができて、子育て中の不安やストレスが軽くなった。」などの好評な意見を得ており、今後も事業実施に努めます。				実績	2 公園		内容 25公園（累計）
					達成度	100 %	%	
					計画			年度
					実績			内容
				達成度	%	%		
コスト					事業費	10,000 千円	千円	
					うち一般財源	0 千円	千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成22年度においては、地元町内会や公園愛護会に加えて育児サークル等と公園づくりの協議を行い、既存公園において、乳幼児コーナーとして整備しており、東西1公園ずつ、計2公園の整備が完了しました。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	整備後のアンケートによると、整備内容について8割以上の利用者から「大変よい」「公園へ来る回数が増えた」旨の良好な意見を得ており、当該事業は有効と考えられます。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	4	当該事業は、育児サークル等が活動する市民センターや児童館等に隣接する公園で実施しており、人の集まりやすい場所に整備することで、多くの市民に利用されていることから効率的に整備を行っており、効果は高いと考えられます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4	現在の公園利用者のニーズに合わせて老朽化した公園を効率的に改修し、将来に渡っても公園が利用されるように事業を実施していく必要があります。また、次世代育成計画(後期)の施策実現のためにも、今後も本事業を積極的に実施していく必要が高いと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		4	現在のところ他の実施主体は考えられず、実施主体は市が適当だと考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	本事業は施策に対する有効性も高く、「安全・安心のまちづくり」を図っていく上で重要な事業であると考えています。今後も目標達成に向けて着実に取組みを進めていくことが適当だと考えます。また、公園の選定に当たっては、育児サークル等の活動状況を最新情報に更新しながら、より効果の高いと考えられる公園に整備して、市民に喜ばれるよう事業を進めていきます。さらに今後は、地元との協議時間を今以上に確保するため、前年度に地元協議、実施設計を行い、次年度に整備工事を行っていきます。	

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	今後も、地域の方や公園利用者の意見を聞きながら、子育て中の家庭が利用しやすい公園整備に努めます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	建設局・公園建設課、緑政課
連絡先	582-2460、2466

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	親子ふれあい公園づくり
-----	-------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本事業は、各区の中心となる大規模公園の既存施設を活用して、地域を越えた子どものふれあい、親同士の交流などができるように、学齢前の幼児を主な対象に親子ふれあい公園を整備し、子育て環境の充実を図ることを目的としています。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	市内3公園の整備	-	-	-	
	これまでの進捗状況、今後の予定	市内3公園の整備完了。各区1箇所程度、市内8公園の整備により事業完了。	-	-	-	-	-
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）	親子ふれあい公園の整備箇所数		計画	3 公園	-	年度 平成22年度
		各区の中心となる大規模公園は、既存施設を活用するため駐車場やトイレを備えた近隣公園以上を対象とし、公園利用者の利便性にも配慮して整備を行いました。		実績	3 公園	-	内容 8公園
				達成度	100 %	%	
				計画			年度
				実績			内容
				達成度	%	%	
【コスト】	事業費	108,970 千円		-		千円	
		うち一般財源		28,170 千円		-	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成22年度において、3公園の整備が完了し、H20年度より合計8箇所の整備が完了しました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	既存事業の「子育てに配慮した公園整備事業」の完了後のアンケートによると、「公園で遊ぶ回数が増えた」と評価された一方で、「大きな公園に整備して欲しい」「駐車場が欲しい」「遊具を増やして欲しい」などの要望が寄せられました。それらの課題・要望に対応するため、当該事業を実施して、市民ニーズに応えられ、効果がありました。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	駐車場やトイレなどの既存施設を備えた大規模公園を活用することで、施設整備のコストを抑制できました。また、既存の遊具コーナーを活用して、遊戯施設の充実を図り、見守る親のための休憩舎、手洗い場、木陰などを整備することで魅力あるエリアを創出し、幅広い利用者の要望に応えることができました。	
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	現在の公園利用者のニーズに合わせて老朽化した公園を効率的に改修し、将来に渡っても公園が利用されるように魅力ある公園づくりを随時実施していく必要がありました。	
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。	4	現在のところ他の実施主体ではなく、市が自主的に行うことが適当であると考えられます。	
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	工	平成22年度末において、当初計画した当該事業の公園整備が完了したため、今後は市民の意見を聞きながら、今後の公園づくりに役立てていきたいです。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	平成23年度の計画はありません。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	------------------	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	建設局計画課
連絡先	582-2480

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	紫川都市基盤河川改修事業(紫川マイタウン・マイリバー整備事業)
-----	---------------------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	小倉都心地域で、治水対策とあわせ、人々が川に集い・憩い・賑わう、「川を軸としたまちづくり」をテーマとした河川整備を行います。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定		河川整備の実施			
実施状況	これまでの進捗状況・今後の予定	事業進捗率 93% (H23年3月現在)	河川整備の実施				
	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	事業進捗率		計画	平成22年度 92%	平成23年度 95%	目標 年度 平成25年度 内容 100%
コスト	護岸工事や河道掘削等の河川整備事業を順調に達成していくことで、潤いのある水辺空間の形成とともに、治水整備が施され、安全・安心なまちづくりを進めていくことができます。	計画		達成度	101.1%	%	年度
		実績		計画			年度
		達成度		実績	%	%	内容
		達成度		実績	%	%	内容
コスト	事業費	544,585 千円		801,000 千円			
		うち一般財源 19,962 千円		26,700 千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	護岸工事や河道掘削等の河川の整備により、順調に事業進捗率が推移しています。
------	-------------------------------------	---------------------------------------

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	地域企業、まちづくり団体、行政が一体となった祭りやイベントなど、身近な水辺を中心とした賑わいが活発化しています。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	整備箇所ごとに最も経済的な方法を検討し整備を行っています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	近年ゲリラ豪雨が頻発しており、水辺を活かした親水整備を行うとともに、治水対策として早急な整備が必要です。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		4	河川法第16条の3に基づき、県と市が協定を締結し、市が整備を実施することとなっていることから、他の実施主体は考えられず、実施主体は市が適当と考えられます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	潤いのある水辺空間の形成が図られているため、現状のまま進めることが適当と考えます。また、近年、ゲリラ豪雨が頻発する等、河川改修の必要性も高くなっていることから、治水整備もあわせて行うべきだと考えます。	

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	さらに安全な水辺空間となるよう、治水対策の向上を図るために、護岸工事や河道掘削等の河川整備を行います。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	港湾空港局総務経営課
連絡先	321-5939

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	海辺のマスタープラン2010の推進
-----	-------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市民が気軽に利用できる水際線を増やし、海に親しむことのできる環境をつくれます。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	市民が親しめる海辺の環境づくり				
	これまでの進捗状況・今後の予定	関連計画の改訂	平成23年 計画改訂を実施 平成23年度以降は、事業名を「魅力ある海辺づくりの推進」として推進予定				
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）		平成22年度	平成23年度	目標		
	市民が親しめる海辺の環境づくりの推進	計画	- 箇所	-	年度		
	市民が親しむことのできる海辺づくりを積極的に推進していきます。	実績	- 箇所	-	内容		
		達成度	%	%	年度		
		計画			内容		
		実績			内容		
	達成度	%	%				
コスト	事業費	114,436 千円	25,680 千円				
	うち一般財源	14,996 千円	25,680 千円				

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	水際線の整備につきましては、国の補助制度を活用していることから、関係機関との調整を図りながら取り組んでおり、着実に実現していると考えます。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	港湾計画に基づき、市民の利用しやすい水際線を造成し、事業着手前と比べ海に親しむことのできる場所が増えました。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3 現在取り組んでいるのは、港湾計画に基づいた港湾緑地等の整備であり、全体コストの削減についても取り組んでいるところです。今後は、新規に緑地等を整備する以外に、既存施設を活用する低コストの整備方法も検討します。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	現在整備中の水際線の一部につきましては、安全対策として防潮・防風機能を伴う緑地の整備と合わせて取り組んでいることから、適時性の高い取り組みです。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	港湾管理者として取り組むべき事業であり、実施主体は市以外に考えられません。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア 目標設定当初に比べ、市民が利用できる海辺は増えていきます。また、現在整備中の水際線の一部につきましては、安全対策として防潮・防風機能を伴う緑地の整備と合わせて取り組んでいることから、適時性の高い取り組みです。 関連計画である海辺のマスタープラン2010の見直し作業(平成23年度策定予定)を行っており、その中では、既存施設の利活用の視点を加えることを検討していますが、これまで取り組んできた緑地整備についても、引き続き実施することが妥当であると考えます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	関連計画である海辺のマスタープラン2010の見直し作業(平成23年度策定予定)を行っており、その中で整備の方向性等を検証しているところです。基本理念としては引き続き取り組んでいくことが妥当であると考えています。しかしながら、既存施設の活用など、新たな取り組みも検討していきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------